



待合はドキドキタイム！

なるべくストレスをかけないようにするために

病院に対する恐怖や不安、知らないお友達に大興奮、動物病院の待合は、ペットにとってドキドキタイムです。だから、時にペットが飼い主さんの予測できない行動をとり、思わぬトラブルにつながる可能性があります。

ペットになるべくストレスをかけないようにするために、今回は待合での過ごし方についてお話ししたいと思います。

1、ペットはケージに入れて待ちましょう

待合でのペット同士のトラブルや、過剰な興奮、飛び出し、マーキング等を防ぐため、ペットはケージやキャリーバックに入れて待ちましょう。特に神経質な子やネコちゃんは、知らないお友達や飼い主さんにパニック状態となり、事故につながったり、余計なストレスを与えることとなります。

ケージ等がない場合、必ずリードをつけて短く持ち、飼い主さんのひざに抱くか、足元に座らせるようにして下さい。

2、ペット同士を遊ばせる時はよく観察しながら

とても社交的で、誰とでも遊びたくて仕方がない子がいます。反面、シャイな性格で、遊ぶのが苦手な子も。また特定の犬種や、自分よりサイズの大きい子を怖がる子もいます。

思わぬケガや、心の傷を残さないためにも、待合でペット同士を近づけるときは、それらをよく把握している飼い主さんのご判断の上、過度に怖がっていないか等、よく観察しながら遊ばせてください。

3、いきなりよそのペットを触らないこと



かわいいペットを見ると、つい触りたくなりますね。でも、ほとんどのペットは知らない人にいきなり手を出されると、とてもビックリして、怖さのあまりお口が出る子もいます。残念ながら、当院でも過去に待ち時間中、小さな子供さんがよそのワンちゃんに咬まれる事故がありました。

臆病、攻撃性などペット側に問題がある場合もありますが、私達だって見ず知らずの人に急に手を差し出されたと想像すると、人間側の問題もご理解いただけだと思います。

よそのペットを触るときは、必ず飼い主さんの許可を得てから、いきなり頭を触ったりせず、できればまずはゴホウビをあげたりするといいですね。

以上、不要なストレスとトラブルを避けるため、待合でのお願いについてお話ししました。

特に怖がりさんだったり、興奮しやすいネコちゃんの場合、お車でお待ちいただくことも可能です。受付時にスタッフまでお申し出下さい。

(獣医師 小崎美紀)

